

— 上智大学 —

2月4日 総合人間科・経済・外国語・神学部 世界史

解答

1

問1: (1) b (2) b (3) b (4) c (5) c (6) a (7) b (8) c (9) b (10) d
 (11) a (12) c (13) b (14) d (15) b (16) d (17) a (18) a (19) c (20) a
 (21) d (22) a
 問2・a 問3・a 問4・a

2

問1: (ア) b (イ) e (ウ) c (エ) b (オ) e
 (カ) c (キ) c (ク) a (ケ) e (コ) d
 (サ) e
 問2・d 問3・c 問4・c 問5・e
 問6・a 問7・d 問8・d

3

問1・a 問2: (1) e (2) b
 問3・d 問4・d 問5・c 問6・b 問7・a 問8・b 問9・b
 問10・b 問11・d 問12・a 問13・e 問14・d 問15・e

4

問1・b 問2・a 問3・b 問4: (1) a (2) d
 問5・c 問6・a 問7・d 問8: (1) c (2) b (3) b
 問9・d 問10・c 問11・b 問12: (1) a (2) b

その他の大学・学部の解答解説はコチラ！

[増田塾 2019 解答速報ホームページ](#)

早慶上智・GMARCH・関関同立などをはじめとした難関大学の解答解説を随時公開していきます！

解 説

1

問 1 :

- (1) 「イラン高原」とあるが、語群の中でイラン(ペルシア)の王朝は b の「ブワイフ朝」しかない。ガズナ朝はアフガニスタンから北インドに侵入した王朝、マムルーク朝はエジプト周辺を支配した王朝、ハルジー朝は北インドを支配した王朝。
- (5) 「1501 年」とあるので、c の「サファヴィー朝」。
- (8~10) シア派を国教とするサファヴィー朝は、スンナ派である西のオスマン帝国、東のムガル帝国と抗争した。
- (15) 「この国は 19 世紀には、ロシアとイギリスの進出に苦しめられた」から、b の「カージャール朝」。
- (16) 「1828 年」から、d の「トルコマンチャーイ」条約。
- (17) トルコマンチャーイ条約でカージャール朝はロシアに東アルメニアの割譲と治外法権を認めた。
- (18) 「1880 年」も重要なヒント。イギリスはロシアの南下を警戒し、第二次アフガン戦争の結果、a の「アフガニスタン」を保護国化した。
- (19) カージャール朝で発生した事件は、語群の中では c の「バーブ教徒の乱」しかない。ウラービー運動はエジプト、シパーヒーの反乱はインド、マフディー運動はスーダン。
- (20) カージャール朝で発生した事件は、語群の中では a の「タバコ=ボイコット運動」しかない。ドンズー運動はベトナム、非暴力・不服従運動とヒラーファト運動はインドの出来事。
- (21) 日露戦争の影響を受けて、1905 年にイラン立憲革命が発生している。
- (22) 「1907 年」が決定的で、a の「英露協定」。サイクス=ピコ協定は 1916 年、テヘラン会談は 1943 年、ラパロ条約は 1922 年。
- 問 2 ・ タブリーズの所在地を問うている。よって、a が正解。b はテヘラン、c はイスファハーン、d はシーラーズ(はっきりしない上に、受験範囲外)、e はヘラート。
- 問 3 ・ イスファハーンに所在するのは、語群の中では a の「イマームのモスク」のみ。イマームのモスクは、サファヴィー朝の最盛期のシャーであるアッバース 1 世がイスファハーンのイマームの広場に面して建てたモスクである。ウマイヤ=モスクはウマイヤ朝のワリード 1 世が建設した礼拝堂で、所在地はダマスカス。カーバ聖殿の所在地はメッカ。クトゥブ=ミナールは奴隷王朝の建国者アイバクが即位前に建設したクトゥブ=モスクの塔で、所在地はデリー近郊。スレイマン=モスクはオスマン帝国最盛期のスルタンであるスレイマン 1 世が建築家のシナンを登用して建設したモスクで、所在地はイスタンブル。
- 問 4 ・ 「パン=イスラーム主義の提唱者」から、a の「アフガーニー」。なお、d の「ムハンマド=アブドゥフ」はアフガーニーの弟子。アフガーニーの思想的影響を受けて、エジプトではウラービーの反乱、カージャール朝ではタバコ=ボイコット運動が発生している。

2

- 問 1 : 史料文(1)~(4)の「この人物」を先に明らかにしておく、(1)は陳独秀、(2)は周恩来、(3)は蔣介石、(4)は魯迅である。
- (ア~ウ) 陳独秀は創刊した雑誌「新青年」で、「民主と科学(デモクラシーとサイエンス)」という標語を掲げ、中国共産党の初代委員長に就任した。

- (エ～キ) 周恩来は鄧小平が行った改革・開放政策の元来の提唱者である。周恩来は、西安事件で武力監禁を受けていた蔣介石を説得し、反共から抗日に転じさせて、抗日民族統一戦線の成立を促した。中華人民共和国の建設後は、首相として外交面で活躍しながらも、プロレタリア文化大革命では、江青が率いる四人組の批林批孔運動によって批判を受けた。
- (ク～ケ) 蔣介石は打倒軍閥のために国民革命軍(北伐軍)を率いて北上したが、妨害を試みる日本軍が山東出兵したため、山東省済南で両軍が衝突した(済南事件)。
- (コ) 語群の中で、魯迅の著作と言えば、『狂人日記』『阿Q正伝』『故郷』だろう。このうち、「農村を舞台にして、一人の下層民を描いた小説」とあるので、dの『阿Q正伝』。
- (サ) 空欄(サ)の直後3行を読むと、(サ)が魯迅を絶賛していたから1980年代まで魯迅を批判することは許されなかったと書いてある。言い換えれば、(サ)は権力者であり、その死後は魯迅への批判もしいに許されるようになったと考えることができる。よって、1976年に死去した権力者であるeの「毛沢東」が正解だろうと判断できる。
- 問2・ dが正文。aは「フランスでは～流行しなかった」が誤り。bも誤文で、「シェークスピアやセルバンテス」はルネサンスの時代であり、啓蒙思想の発生以前。cは社会主義思想の説明。eはロマン主義の説明。
- 問3・ cが正文。aは「敗戦諸国がともに参加」が誤り。bは「戦勝国の領土的要求はすべて拒絶」「名実ともに実現」が史実に反する。dは「不平等条約撤廃」ではなく、二十一カ条(の)要求破棄。eは「サン＝ジェルマン条約」ではなく、セーヴル条約。
- 問4・ cが正文。aはプルドンの説明。bは「レーニン」ではなく、スターリン。dはバクーニンの説明。eはカール＝リープクネヒトの説明。
- 問5・ eは誤文。改革・開放政策とは、1978年以降、鄧小平の指導下で行われた経済改革と対外経済開放政策で、具体的には、人民公社の解体、農産物価格の自由化などに加え、対外経済開放の拠点として「経済特区」が設けられ、外資や技術の導入を進めたことを指す。したがって、「農村改革はしばらく放置」とは言えない。
- 問6・ aが正解。ネルー・周恩来会談で平和五原則を提唱した。
- 問7・ 蔣介石が日本に対して寛大な措置を取ったことから、aとeは十分にあり得る。また、当時、中国国民党の蔣介石が置かれていた立場を考えれば、中国共産党との内戦再発への憂慮があり、日本を味方につけておきたいという狙いもあった可能性があり、bもあり得る。さらに、ソ連の対日参戦(朝鮮・樺太・満州に侵入)は1945年8月8日に始まるので、終戦前。よって、cも矛盾しない。残ったdが誤りだと判断できる。
- 問8・ dが正解。a、eは辛亥革命以前の光緒新政で行われているので除外できる。また、辛亥革命直前に清朝による幹線鉄道国有化宣言が行われていることから、cも辛亥革命以前だと判断できる。さらに、bの「国会の開設」は、光緒新政で公約されたが、実際には辛亥革命(1911～12年)後の1913年に開設されたので、辛亥革命によって実現したとは言えない。これは、山川出版社の「詳説世界史研究」のp.420に明記されている。なお、実教出版の教科書「世界史B新訂版」のp.325に「1912年末から翌年にかけて国会選挙がおこなわれ」とあり、帝国書院の教科書「新詳世界史B」のp.250には「選挙後に成立した国会」とある。繰り返すが、国会の開設は1913年であり、辛亥革命後である。なお、国会選挙の結果、国民党が第一党になったが、袁世凱に弾圧され、国会の機能は停止させられた。

3

- 問 1・ 「ラオコーンが登場する出来事」とあるが、トロイア戦争のこと。ヘレニズム文化の彫刻作品「ラオコーン」はトロイア戦争で活躍したトロイアの神官ラオコーンとその二人の息子が題材。また、ホメロスの『イリアス』もトロイア戦争が題材なので、a が正解となる。
- 問 2 :
- (1) トロイア戦争が起こった場所は小アジア沿岸のトロイアである。トロイア文明の所在地が分かっているならば、e が正解だと分かるだろう。
- (2) 「ラオコーン」が出土したのは、ローマである。よって、b が正解。意外に細かい知識なので、正答率は低いだろう。
- 問 4・ (B)の図版はアケメネス朝ペルシアの首都ペルセポリスの宮殿跡だが、多くの教科書に掲載されている。よって、d の「ペルセポリス」が正解。
- 問 5・ 「この宮殿がかつてあった国」とは、アケメネス朝ペルシア。ただし、「滅ぼした人物」なので、c の「アレクサンドロス大王」が正解。
- 問 7・ a が正文。b はリディア王国の説明。c は「1 世」ではなく、2 世。d は「3 世」ではなく、1 世。e はササン朝ペルシアの説明。
- 問 8・ 「この国(アケメネス朝ペルシア)の人々が信仰した宗教」とは、ゾロアスター教。よって、b が正文。a はマニ教の説明。c は「アーリマン」と「アフラ=マズダ」が逆。d はネストリウス派キリスト教の説明。e は「シャープール 1 世」ではなく、ホスロー 1 世。
- 問 9・ (C)の図版も多くの教科書に掲載されているが、b の「四帝分治制」の像。
- 問 11・ 「コンスタンティノーブルから略奪して運ばれてきた」とあるので、コンスタンティノーブルが攻撃を受けた事件を選べば良い。よって、d の「第 4 回十字軍」。
- 問 12・ (D)の図版はアテネのパルテノン神殿とその周辺である。パルテノン神殿の本尊にはフェイディアス作のアテナ女神像が設置されていた。よって、a の「アテナ」。
- 問 13・ パルテノン神殿はマラトンの戦い直後に建設されたが、ペルシア戦争中に破壊され、戦後ペリクレス時代にフェイディアスが再建した。よって、e の「ペルシア戦争」が正解。
- 問 14・ 「アテネ」についてなので、d が正解。a はテーベの説明。b はイェルサレムの説明。c はニネヴェの説明。e はロゼッタの説明。

4

- 問 1・ a は 988 年、b は 711 年、c は 987 年、d は 911 年。
- 問 2・ 「教皇ヨハネスによって、皇帝へ任命」とあるので、962 年の教皇ヨハネス 12 世によるオットーの戴冠を指していることが分かる。よって、a の「オットー 1 世」。
- 問 3・ b が正文で、オットー 1 世はイタリア政策を開始した。a は「アヴァール」ではなく、マジャール。c の「東方植民」は 12~14 世紀なので、時代が異なる。d も誤文で、オットー 1 世は帝国教会政策をとっており、国内の聖職者の叙任権を掌握した。
- 問 4 :
- (1) ローマについてだが、a が正文。b はバヴィアの説明、c はフィレンツェの説明、d はミラノの説明。
- (2) 「総大司教座となる教会」とは、五本山のこと。ローマ、コンスタンティノーブル、アンティオキア、イェルサレム、アレクサンドリア教会を指す。よって、d の「エフェソス」が正解。
- 問 5・ 「南フランス」「異端者を駆逐」「十字軍」とあるので、c の「アルビジョワ十字軍」。
- 問 6・ a は正統のアタナシウス派の三位一体説なので、異端とされた主張にあてはまらない。

問 7・ アルビジョワ十字軍は 1209 年から。a は 1302 年、b は 15 世紀、c は 1492 年、d は 1209 年。

問 8 :

(1) 「15 世紀初頭」「ベーメン一帯に勢力を保持していた異端に関しても議論」から、1414～18 年のコンスタンツ公会議が想起できる。ベーメンのフスを火刑に処し、フス戦争を誘発した。よって、c の「コンスタンツ」が正解。

(3) コンスタンツ公会議は 1414～18 年。a は 1346～50 年、b は 1429 年、c は 1381 年、d は 1273 年。よって、「最も近い」のは b。

問 9・ d は「ピサ」ではなく、ヴェネツィア。

問 10・ アレクサンドリアはエジプトの都市であるが、c の「ムラービト朝」はモロッコとイベリア半島南部が版図である。

問 11・ b の「イコン」は、イエスや聖母マリアなどの聖像画で、ギリシア正教会ではそれ自体が信仰の対象となっていた。ビザンツ皇帝レオン 3 世が聖像禁止令で制作・崇拜を禁じた。a の「羅針盤」は中国が起源で、イスラームを経由し、ヨーロッパに伝わった。c の「古代ギリシア哲学」は、イスラーム世界に伝わり、イブン＝ルシュドやイブン＝シーナーが研究し、ヨーロッパに再度伝わった。d の「ゼロの概念」は、インドからアラビア半島に伝わり、イベリア半島を経てヨーロッパに伝わった。

問 12 :

(1) イギリスの羊毛がフランドルに輸出・販売され、フランドルはイギリスの羊毛を原料に毛織物産業を発達させた。よって、a が正解。

(2) b が正文。a は「ブルゴーニュ」ではなく、シャンパーニュ。c は「ハンブルク」ではなく、リュベック。d も誤文で、「ボルジア家」はイタリアの富豪。教皇アレクサンデル 6 世(本名ロドリゴ＝ボルジア)を輩出した。また、「南ドイツ」「鉱山業」とくれば、フッガー家。

その他の大学・学部の解答解説はコチラ！

増田塾 2019 解答速報ホームページ



早慶上智・GMARCH・関関同立などをはじめとした難関大学の解答解説を随時公開していきます！